



## すみだの風景荒川に架かる橋



新荒川橋

墨田区域を流れる荒川本川は、かつて荒川放水路と呼ばれた人工河川です。隅田川沿川を洪水から守るために開削されました。明治43（1910）年に荒川の改修計画が立てられ、翌年に測量と用地買収が開始され、沿岸に住む人々は先祖伝来の土地や家屋等を失うという大きな犠牲を強いられました。

人や馬により高水敷を掘り始め、大正5（1916）年には北区の岩淵水門を起工。開削工事、全長22km、幅500mにもおよび、昭和5（1930）年に完成するまで、実に20年の歳月を要し、今年建設から100年を迎えています。

荒川は岩淵水門で隅田川と分岐して、東京湾に注ぎますが、墨田区ではその北東を流れ、葛飾区との区境を抜けています。この川に架かる橋は、北から昭和57（1982）年に開通し

た首都高速6号向島線の新荒川橋。そこから1.5キロ下流には、昭和27（1952）年完成の四ツ木橋があります。橋名は地名をとっており、水戸街道をつなぐ大切な橋です。

そのすぐ南に少し斜めに架かっているのが、昭和48（1973）年完成の新四ツ木橋で、曳舟川を埋めたてて造られた曳舟川通りに連なっています。曳舟川は浮世絵にも描かれ、かつては多くの物資を運びました。

新四ツ木橋の南200mの地には京成電鉄の鉄橋、さらに150m離れて、昭和44（1969）年完成の木根川橋が架かっています。かつてこのあたりにあり、徳川将軍家も参拝した木下川薬師は大正8（1919）年に開削工事のため対岸の葛飾区東四つ木一丁目に移転しました。



四ツ木橋（手前）と新四ツ木橋



四ツ木橋から北西方向をのぞむ

また、八代将軍吉宗の道案内のために建てたといわれる「やくしみち」の道標も、八広四丁目交番わきの植込みに移されています。

荒川を隅田川とくらべてみると、隅田川はコンクリートの護岸で固められた運河のようになってしまいました。

しかし、荒川には永井荷風の「放水路」に描かれたような自然の風趣が未だに残っており、堤防と流れとの間にある河川敷は人々が憩うとともに、スポーツ活動にも利用される水辺スペースとなっています。

また、極めて大きな洪水でも決壊しないような幅の広い堤防「スーパー堤防」の整備などが、自然環境と調和を図りながら進められています。

荒川は完成後約80年にわたり、流域の街を、洪水から守り続けているのです。